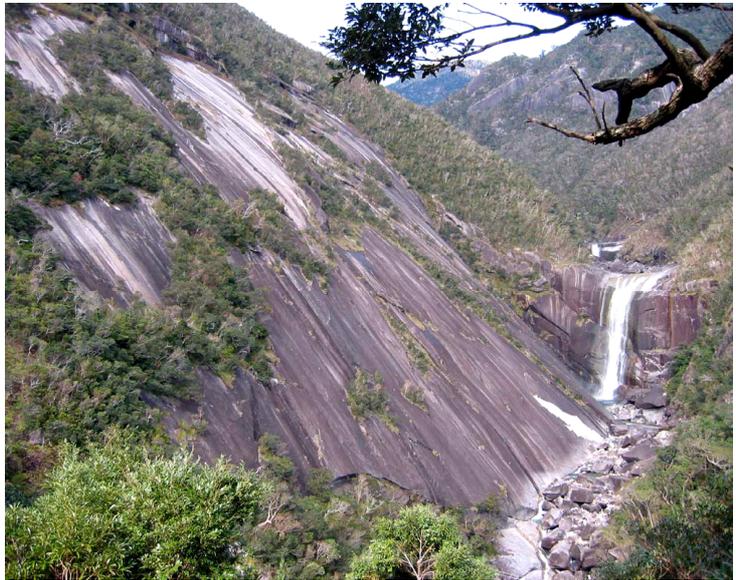


鹿児島 ROCK NEWS No. 2

鹿児島唯一のロッククライミング情報誌（不定期発行・無料）

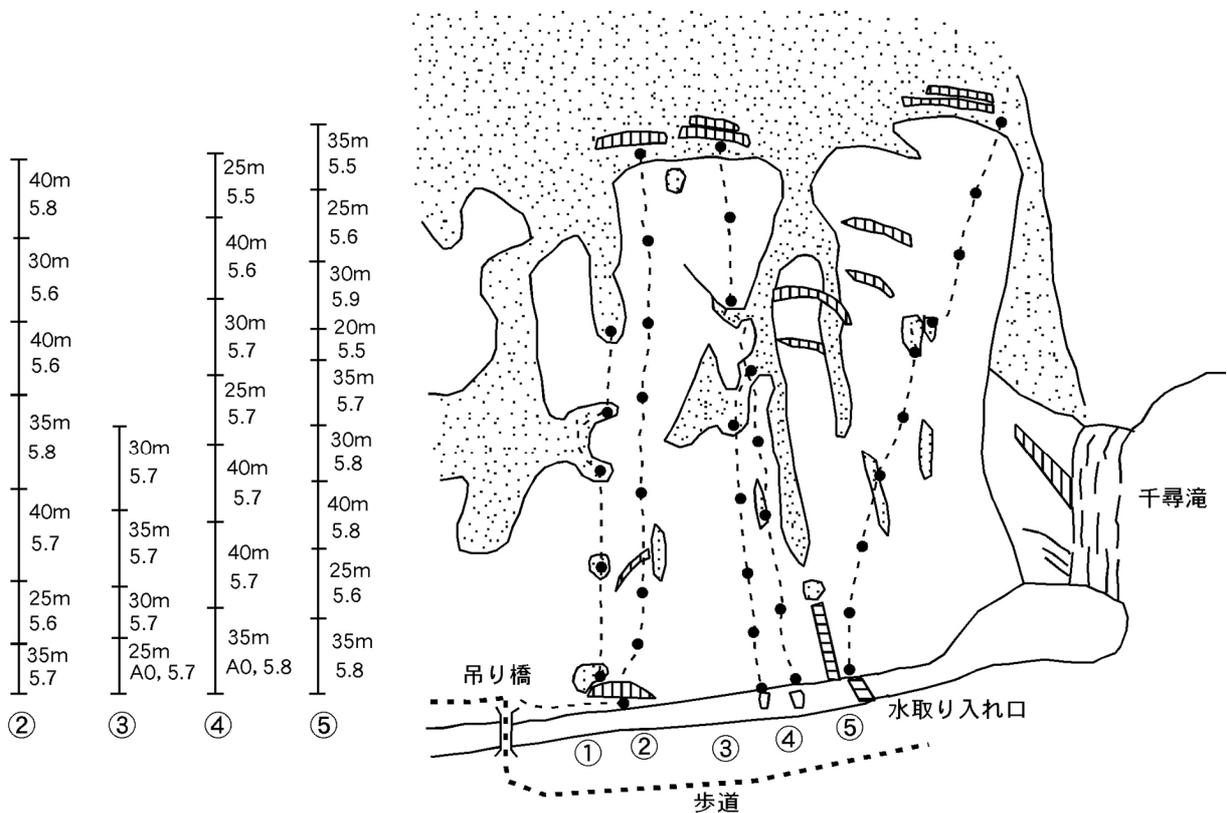
カラー版をウェブで配信中 http://homepage.mac.com/hyam2/Climbing_Guide/

屋久島にはスケールの大きい岩場が多数あります。代表的なものだけでも4ページでは紹介しきれません。今号では、一番アプローチが容易な「千尋滝右岸スラブ（右の写真）」を紹介します。千尋滝の駐車場から15分程度で取り付く事ができます。



この壁が初めて登られたのは30年近く前です。龍鳳登高会によってスラブ左端を登るほぼ人工登攀の「大スラブインゼルルート（下図の①）」が拓かれました。現在ではボルトの腐食が進んでいるので、初登時のスタイルで再登攀するには全てのボルト

を打ち直さなければなりません。1990年代に鹿児島黒稜会が4本のフリーおよびフリー主体のラインを開拓しました。いずれも、雄大な滝を眺めながら快適に登れる易しいルートです。フリクション性能



①龍鳳登高会ルート ②千々岩ルート ③スペシャル鯛焼きルート ④鯛焼きルート ⑤梅津ルート (人工登攀)

が高い最新のシューズを履けば、表示のグレードよりも易しく感じるでしょう。ただし、新品の靴底が一日ですり減ってしまうかもしれません。前ページの図の右側のルートから順に説明します。

「梅津ルート」 (275m 9ピッチ 5.9 所要3時間)

広いスラブを斜めに登っていることと、ボルトの間隔が遠いために、途中から登るべきラインがわかりにくくなってきます。右に寄り過ぎるとスラブの傾斜が急になって正しいラインに戻り難くなるので注意してください。ルートの下部はグラウンドアップ、上部は上からロープを使って開拓しました。

1ピッチ (35m, 5.8) : 用水の取り入れ口を伝って川を渡って取り付く(下の2枚の写真)。水量が多い時にはここが急流になってしまうので取り付けない。2mの垂壁を越えスラブを直上。

2ピッチ (25m, 5.6) : スラブを右上して小テラスに至る。

3ピッチ (40m, 5.8) : そのままスラブを右上。右に細く伸びるブッシュラインでピッチを切る。

4ピッチ (30m, 5.8) : 右斜め上に見える独立したブッシュ帯目がけスラブを右上する。スラブの途中でピレイを取る。

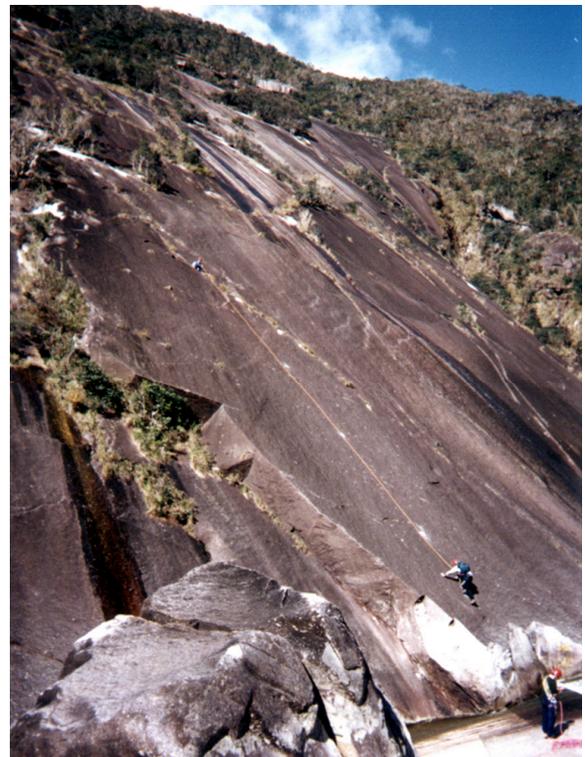
5ピッチ (35m, 5.7) : 更に右上の独立したブッシュ帯目がけスラブを右上し、ブッシュへ入る。

6ピッチ (20m, 5.5) : ブッシュを上まで登り、4mのスラブをトラバースし右の小ブッシュ帯の上に至る。

7ピッチ (30m, 5.9) : 右のスラブへ出て、トラバース気味に右上する。ホールドが小さくこのルートの山場である。広いスラブの真ん中でピッチを切る。

8ピッチ (25m, 5.6) : そのままスラブを右上。傾斜が落ち容易になる。

9ピッチ (35m, 5.5) : 傾斜の緩いスラブを右上。スラブ最上部の灌木帯へ入り登攀を終了する。右へ下降気味に灌木帯に入り、右へトラバース後直上すると5分で踏み跡に出る。



「鯛焼きルート」 (235m 7ピッチ 5.8, A0 所要3時間)

グラウンドアップ(ワンプッシュ)で開拓しました。取り付き付近の岩は水で磨かれてツルツルです。

ここだけはボルトを連打してA0になりましたが、その上はフリーです。中間支点のボルトが少ないので、リードする人は慎重に。ここは真夏に開拓したために、日差しが強くて焼けるように熱かったことと、足下の川が「鯛之川」だったことから鯛焼きルートと名付けてしまいました。今更ながらもうちょっとマシな名前にしておけばよかったと思います。

1ピッチ (35m, 5.8, A0) : 取水口から20m程下の岩より取り付く。A0 (ボルト3本) で2m登り、右のバンドへ移る。A0用のボルトは増水時に水没するので、取り付くときに傷みがないかよく確認する必要がある (スペシャル鯛焼きルートも同様)。凹状部を直登、20mでボルトが打ってある。これにクリップする前に落ちたらグラウンドフォールになる。長石の結晶をホールドに更に右上し、不安定なビレイポイントでピッチを区切る。

2ピッチ (40m, 5.7) : スラブを直登。ザイルいっぱい二つ並んだ左のブッシュに入る。

3ピッチ (40m, 5.7) : そのまま二つのブッシュの間のスラブを直登。ザイルいっぱい右のブッシュに入る。

4ピッチ (25m, 5.7) : スラブを直上。スラブが終わり、いったんブッシュ帯となるので、左のブッシュ帯へ入り、5m程トラバース。ハング帯の下へ出る。

5ピッチ (30m, 5.7) : かぶり気味の壁 (5m) を越え、フェイス (15m) を登りブッシュ帯へ入る。右へ5mトラバースすると上部スラブの下へ出る。

6ピッチ (40m, 5.6) : 白いスラブの真ん中を直登。

7ピッチ (25m, 5.5) : そのままスラブを直登。ブッシュ帯へ入り、藪こぎ5m で垂直な壁の下へ出て登攀を終了する。左へ灌木帯をトラバース後、左上すると10分で登山路に出る。

「スペシャル鯛焼きルート」 (120m, 4ピッチ, 5.7, A0, 所要2時間)

スラブ全体のほぼ中央部を登ります。これもグラウンドアップで開拓したので、開拓時の中間支点は1ピッチにボルト1本くらいしかありません。

1ピッチ (25m, 5.7, A0) : 鯛焼きルートから20m程下流の岩に乗って取り付く。A0 (ボルト2本) で3m登り、スラブを直登。ここで落ちればグラウンドフォールになる。いったんバンドへ出て更に直登する。

2ピッチ (30m, 5.7) : スラブを直上。広いテラスでピッチを切る。

3ピッチ (35m, 5.7) : スラブを直上。小さなステップを越える所が核心。

4ピッチ (30m, 5.7) : スラブを直上。ブッシュ帯手前で長石の結晶が無くなり、靴底だけのフリクションで登る。ここは細いリスさえもなく岩も硬かったので、筆者の記憶では中間支点を一本も打っていない。樹林帯に入った所で鯛焼きルートにつなげて登るか、そこから懸垂下降する。

「千々岩ルート」 (235m, 7ピッチ, 5.8, 所要3時間)

上からロープを垂らしてボルトを設置しました。ラインがブッシュの間を通っていてわかりやすいので、このスラブのなかでは一番リードしやすいでしょう。岩の表面に長石の結晶が浮き出ているのでよいホールドになりますが、体重を乗せると欠けることがあるので注意してください。

1ピッチ (35m, 5.7) : 吊橋から50m右岸をトラバースし、取り付き点に出る。7mの垂壁を越え、ス

ラブを右上する。バンドへ出てピッチを切る。

2ピッチ (25m, 5.6) : 頭上の二つのブッシュの間を目がけスラブを直上。

3ピッチ (40m, 5.7) : ステップ目がけスラブを直上。ステップを越える所が核心。更にスラブを直上する。ピンが遠く不安定。

4ピッチ (35m, 5.8) : スラブを直上。

傾斜が強くなるが、ホールドがしっかりしているので悪くはない(右の写真)。

5ピッチ (40m, 5.6) : スラブを直上。

6ピッチ (30m, 5.6) : スラブを直上。

濡れていることが多い。

7ピッチ (30m, 5.5) : 容易なスラブを直上。垂壁の下の草付きに出て終



了。終了点から左ヘトラバース気味に灌木帯を登ると5分で登山路に出る。

千尋滝右岸スラブへのアクセス : 屋久島には宮之浦または安房から上陸。島を一周する道路を右回りに南下する。原(はるお)の手前に「千尋滝」への案内看板があるので看板に従って右手の細い道に入る。要所に滝への経路を示す表示があるので見落とさないように進む。急坂を登りきったところに広い駐車場がある、ここにはトイレと水道があってキャンプも可能。ただしキャンプの指定地ではないのでトラブルをおこさないように注意してほしい。駐車場から奥に100mほど進むと左手に本富岳への登山道が分岐する。そのすぐ先で道路は行き止まりになり、千尋滝とスラブを展望できる。道路の終点から谷側に階段状の歩道がついている。それを下って行くと数分で吊橋に至る。橋の手前から鯛之川の右岸に降りて、岩場を少し上流側に進むと「千々岩ルート」の取り付き。他のルートに取り付くには吊橋を渡ることになるが、吊橋の扉に鍵がかかっているため、事前に通行許可を得ておく必要がある(以下の記述は許可を得ているものと仮定)。吊橋を渡って千尋滝直下の取水口まで進むと、そこが「梅津ルート」の取り付き。取水口より下流の二か所で岩伝いに川を渡ってスラブの末端から取り着くのが「鯛焼きルート」と「スペシャル鯛焼きルート」。どのルートも、終了点から藪の中を数分直上するとしっかりした踏み跡に出る。このあたりにはマムシが多い。踏み跡を下流側に向かって辿って行くと本富岳登山道の末端付近に合流する。ここで登り方向に向かわないように。道なりに下ればすぐに登山口の道路に至る。

発行 : クライミングクラブ鹿児島黒稜会

代表連絡先 : 三穂野善 〒899-5656 始良郡始良町西始良2-4-9 電話 : 0995-65-6210

編集担当 : 山本啓司 電子メール : a002_hyam2@mac.com

本誌は複写自由です。複写物を再配布するときは、全ページを一括して配布してください。本誌の情報はクライミング行為の安全性を保障するものではありません。

スペシャルティコーヒーのカフェ・くらわんか

〒891-0144 鹿児島市下福元町4 7 9 4-3 Tel&Fax: 099-261-3669

日曜休業 土曜日は月三回営業(クライミングウォールあります)

<http://homepage.mac.com/hyam2/kurawanka/>

